

平成 24 年 4 月 24 日

京都大学総長 松本紘

総合科学技術会議科学技術イノベーション政策推進専門調査会
基礎研究及び人材育成部会での審議にあたって

基礎研究及び人材育成について、今後部会を設け審議を行っていく上で、重要と考える事項がありますので、書面をもって意見を提出します。

基礎研究及び人材育成が、科学技術イノベーションを推進する上で重要な役割を果たすことはいうまでもなく、これらに果たす大学の役割は非常に大きなものがあります。

しかし、大学の置かれている現在の状況は必ずしも十分であるとは言えません。運営費交付金が削減される一方で、競争的資金が増額されている中、大学では研究よりも競争的資金獲得とその執行に力をとられている状態です。研究を下支えする間接経費がつかない研究費も少なくありません。

また、研究対象が特定されているような競争的資金では、当該分野では大きく研究が進展しますが、周辺分野の研究も資金獲得のために擦り寄っていき、大学本来の独創的で、裾野が広い多様な研究活動を維持することが困難になってきています。

大学の研究活動を評価する指標も論文数など量的な指標が多く用いられていますが、研究の質的な面をうまく示せる指標は少なく、大学の研究活動が真に適正に評価されているか疑問です。海外との比較においては、例えば大学における研究補助体制の比較なども踏まえてトータルで検討することが必要です。

一方で、大学の内部においても課題はあります。研究者が、大学の自治の下、自身の興味関心に応じて自由な研究を行うことは当然ですが、そのことだけを念頭にしていないだろうか、新たな研究分野を切り拓くなど知を創造するという目的を忘れていないかを改めて問い直す必要があります。

このように基礎研究及び人材育成に関しては多くの論点があると考えます。本日の審議や今後の部会における議論では、論点をしっかり整理し、論点ごとにタスクフォースを設置するなど、適切な審議体制を整備することが重要です。

また、審議を進めるにあっては、実態を十分に把握することが必要であり、様々なデータを集め、それに基づく審議が進められる体制とすることを希望します。

以上も踏まえて、検討すべきと考えられる事項案を以下に示しますので、参考としていただけると幸いです。

なお、競争的資金等の科学技術予算と大学の諸活動を下支えする基盤的経費との扱いについて、同様な論点で議論すべきかどうかについて考える必要があると考えます。

1. 基礎研究と人材育成における課題の洗い出しと対応

- ①基礎研究の本質的意義の再検討
- ②基礎研究における問題点
 - (1)基礎研究を推進する大学の体制
 - 研究の推進と支援体制の在り方
 - 大学院学生への研究と奨学の支援
 - (2)研究資金制度について
 - 科学技術予算と大学の基盤的経費の在り方
 - 科研費等競争的資金制度の在り方
 - 間接経費の在り方
 - (3)基礎研究の実態と研究者の意識の把握
 - 研究現場における課題
 - (研究専念時間と研究以外の業務との関係)

2. 施策アクション策定における課題等

- ①大学改革と基礎研究・人材育成政策
- ②数値目標の在り方
- ③基礎研究と人材育成の質的充実のための施策

以 上